令和6年9月玉川村議会定例会

議事日程（第1号）

令和6年9月6日（金曜日）午前10時開会

- 日程第 1 会議録署名議員の指名について
- 日程第 2 会期の決定について
- 日程第 3 村長の提案理由の説明
- 日程第 4 請願の処理について（委員会付託）
- 日程第 5 議長発議 玉川村議会決算審査特別委員会の設置について

出席議員（12名）

1番	小針善誠君	2番	堀越美保君
3番	佐久間福男君	4番	円谷兼一君
5番	岩谷幸雄君	6番	大羅将君
7番	須藤安昭君	8番	林芳子君
9番	飯島三郎君	10番	三瓶力君
11番	石井清勝君	12番	小針竹千代君

欠席議員（なし）

職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局長	大越健一	会計年度任用	須藤智恵子
------	------	--------	-------

説明のため出席した者の職氏名

村長	須釜泰一君	副村長	丹内一彦君
教育長	岡崎寛人君	総務課長	須田潤一君
企画政策課長	添田孝則君	住民税務課長兼会計管理者	塩澤春美君
健康福祉課長	坂本敬君	産業振興課長兼農業委員会事務局長	塩田敦君
地域整備課長	高林浅輝君	教育課長	小針武彦君
公民館長	小針達夫君	遊水地対策室長	溝井浩一君

◎開会の宣告

○議長（小針竹千代君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は12人であります。

定足数に達していますので、令和6年9月玉川村議会定例会を開会します。

（午前10時00分）

◎開議の宣告

○議長（小針竹千代君） 直ちに本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（小針竹千代君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

◎会議録署名議員の指名

○議長（小針竹千代君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、

5番 岩谷幸雄君

6番 大羅将君

を指名いたします。

◎会期の決定

○議長（小針竹千代君） 日程第2、会期の決定の件を議題にします。

お諮りします。

本定例会の会期は、本日から9月13日までの8日間にしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（小針竹千代君） ご異議なしと認めます。

よって、会期は本日から9月13日までの8日間に決定しました。

◎村長の提案理由の説明

○議長（小針竹千代君） 日程第3、村長の提案理由の説明を求めます。

村長。

〔村長 須釜泰一君登壇〕

○村長（須釜泰一君） 皆様、おはようございます。

本日ここに、令和6年玉川村議会9月定例会を招集しましたところ、議員各位におかれましては、公私ともに何かとご多忙の中、ご参集をいただき、誠にありがとうございます。

当面する重要な議案を提出いたしましたので、以下、提案理由についてご説明をいたしますが、それに先立ち、全国各地で相次いで発生している豪雨や地震等の自然災害について申し上げます。

7月25日からの梅雨前線に伴う記録的な大雨により、一時大雨の特別警報が発令されるなど、山形、秋田両県を中心に、河川の氾濫等による家屋の全壊や浸水、土砂崩れなどの甚大な被害が発生いたしました。

県内においても、局所的にゲリラ雷雨が相次いで発生しており、これまで大きな被害が生じております。

また、8月は立て続けに台風が発生しており、8月12日には台風第5号が観測史上3例目となる東北太平洋側から上陸し、岩手県を中心に大きな被害をもたらしたほか、8月13日に発生した台風第7号は、16日から17日にかけて非常に強い勢力で関東地方沿岸部に接近し、各地で大きな被害が発生いたしました。

8月22日には、日本のはるか南の海上で台風第10号が発生し、29日には史上最強クラスの

勢力で九州に上陸し、鹿児島県に暴風、波浪、高潮の特別警報が発令されるなど、九州地方を中心に甚大な被害をもたらしました。

また、台風本体だけではなく、台風の中心から離れた位置に帯状にできる雲、いわゆるアウターバンドの影響により、九州地方だけではなく、東海地方や関東地方においても大雨となるなど、国民生活に大きな影響を与えました。

さらに、8月8日に日向灘沖で発生した最大震度6弱の地震では、宮崎県を中心とした被害が発生したほか、史上初となる南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が出されるなど、甚大な被害が想定される巨大地震の震源域内の地域だけではなく、日本国内にまさに地震大国という警戒感が強く広がりました。

これらの災害により、不幸にしてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々へお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧、復興、再生がなされることをお祈り申し上げます。

本村におきましては、現在のところ大きな災害等は発生しておりませんが、いつ、どこで発生するか分からないのが自然災害であり、近年は地球温暖化等の影響もあり、大雨等の自然災害が頻発、激甚化しております。

村といたしましては、村民の皆様の生命と財産を守り、安全・安心を確保するため、自助、互助、共助、公助が一体となった防災対策を推進するとともに、防災力強化の取組を進めるなど、引き続き関係機関と連携し、災害対策に万全を期してまいります。

次に、村政に関する当面の諸課題につきまして、所信の一端を述べさせていただきます。

初めに、国の経済状況等について申し上げます。

日本銀行は、7月31日の金融政策決定会合において、従来はゼロから0.1%程度に促すとしていた短期金利を、0.25%程度に引き上げることを決定しました。また、会合後の記者会見の中で、植田総裁は今後の金融政策運営について、さらなる金利の引き上げもあり得るという考えを示しております。

このような状況の中、8月5日の日経平均株価は先週末比4,451円安の3万1,458円で取引を終え、過去最大の下げ幅を記録いたしました。

一方、翌日はこの流れが一転し、前日比3,217円高の3万4,675円まで回復し、過去最大の上げ幅となりました。

さらに、円相場についても、6月26日のニューヨーク外国為替市場では、1ドルに対して一時160円台後半まで円安が進み、およそ37年半ぶりの円安ドル高水準を更新しましたが、

その後、8月末には144円台まで円高方向に推移するなど、為替相場が急激に変動をしております。

また、内閣府が公表いたしました令和6年8月の月例経済報告によりますと、景気は一部に足踏みが残るものの緩やかに回復してきており、先行きにつきましても、雇用、所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されるとしております。

一方、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっているほか、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があるとされております。

本村におきましても、こうした国の経済状況を踏まえ、物価上昇や金融資本市場の変動が実体経済や国民生活等に与える影響について注視していくとともに、国や県の動きについて、引き続き情報収集に努めてまいります。

次に、人口減少対策及び交流人口、関係人口の拡大についてであります。

人口減少対策については、引き続き村の最重要課題として位置づけ、知らない地域、来たことがない地域を移住先としては選ぶ方はいないとの考えを継続しながら、交流人口、関係人口の拡大に向け、全庁を挙げて取り組んでおります。

特に、今年度は人口流出抑制、移住・定住につながる交流人口、関係人口の拡大に向けた施策の一層の充実を図るため、すがまプラザ交流センター内に、住まい、仕事、暮らし支援等に係る情報収集・発信及び相談をワンストップで対応する窓口として、本年5月にたまかわくらしサポートセンターを開設いたしました。

本センターを「たまかわくらし」の拠点として、関係機関や地域おこし協力隊、集落支援員等とも連携を図りながら、移住定住施策の推進を図ってまいりたいと考えております。

また、今年で4年目を迎えたたまかわ観光交流施設、森の駅y o d g eや、日本一自転車が好きな村を基本理念としているサイクルヴィレッジたまかわ事業に加え、9月28日には、複合型水辺施設、乙な駅たまかわのオープンを予定しており、これらの拠点整備により着実に新しい人の流れが生まれ、玉川村に来てもらい、玉川村を知ってもらい入り口として、受皿となり、地域のさらなる活性化に寄与するものと大いに期待をしております。

次に、振興計画の5つの基本目標に沿って、令和6年度の主な施策の取組状況等についてご説明を申し上げます。

まず、1つ目の「皆で支えあう福祉の村づくり」であります。

子育て支援につきましては、本年4月から村保健センター内にこども家庭センターを開設し、妊娠、出産、子育てに関する相談や、虐待、貧困などの困難を抱えた子供とその家族に対する相談など、妊娠期から子育て期の様々なニーズや課題に対し、専門職による継続的、一体的な支援を実施しております。

今年度は新規事業として、生後1か月を経過した乳児が受診する健康診査費用の一部を助成する1か月児健康診査費助成事業を実施し、健診にかかる費用の負担軽減を図り、より一層、安心して子育てができる環境づくりに努めているところであります。

また、不妊治療費等助成事業については、子供の誕生を望むご夫婦に対するさらなる経済的負担の軽減を図るため、これまでの生殖補助医療に加え、今年度より一般不妊治療及び不妊症検査を新たに助成対象としており、本年8月末現在で夫婦1組が本事業の申請を行っております。

次に、高齢者福祉の充実につきましては、本年3月に策定いたしました第9期玉川村高齢者福祉計画及び玉川村介護保険事業計画に基づき、事業を進めているところであります。

中でも、行政と住民が協働で取り組んでいる健康サロンについては、本年7月から新たに小高地区に2つ目の健康サロンが設置されるなど、現在は15か所で活動しており、参加者からは参加するのが毎回楽しみとの声も多く聞かれるなど、大変好評をいただいております。

これらの活動に参加することにより、生きがいを得るだけでなく、健康寿命の延伸、認知症や寝たきり状態等の介護予防にも大きく貢献するものと考えておりますので、引き続き各サロンの活動を支援してまいります。

また、高齢者等の生活の質、いわゆるクオリティ・オブ・ライフの向上を目指す実証事業として、村内の高齢者、障害者、免許返納者、移動等に支援が必要な方々等を対象に、日常生活を支援する事業の一つとして、安心サポート事業、御用聞きサービスを展開しております。役場や銀行、病院、郵便局等での付添いや手続の支援、スーパー等での付添支援や買い物支援等を行っており、8月末現在で69名の方が登録され、毎月70件程度利用をいただいております。

今後も、日常生活にちょっとした支援が必要な方々の生活の質を向上させるため、毎月、関係者による定例会により、課題や情報の共有を図るとともに、利用者のご意見等もお聴きしながら事業を進めてまいります。

次に、新型コロナウイルス感染症の重症化予防対策についてであります。

今年度から、高齢者等に対する新型コロナワクチン接種が定期接種となり、村では費用の

一部助成を行うため、接種を希望する方に速やかにワクチンを接種することができるよう、必要な補正予算を本定例会に提案をしております。

高齢者はもとより、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らし続けることができるよう、引き続き地域包括ケアシステムの深化・推進に向け積極的に取り組み、さらなる高齢者福祉の充実に取り組んでまいります。

次に、2つ目の「環境にやさしい安全・便利な村づくり」についてであります。

地域のデジタル化の推進につきましては、国のデジタル田園都市国家構想に基づく社会変革への取組として、今年度も各種事業を実施しております。

民間大手企業との連携の下、今年も全国から多くの注目を集めている手ぶらキャッシュレス事業について、これまでの指静脈による認証から、利用者のさらなる利便性向上や生体認証の活用シーン拡大を検証するため、今年度は顔認証で買い物ができるよう進化させました。これにより、役場に来なくても、スマートフォンやパソコンから利用者登録を行うことが可能となることから、利用者の利便性が拡大するものと考えております。

次に、マイナンバーカード普及に向けた取組状況等についてであります。

マイナンバーカードをデジタル社会の基盤と位置づけ、普及促進の取組を進めてきた結果、令和6年7月末現在、本村におけるマイナンバーカードの保有枚数率は、国・県の平均を上回る77.5%となっております。今後、国や自治体において様々なデジタル化の取組が進む中、健康保険証との一体化など、マイナンバーカードを前提とした制度やシステム構築の展開が見込まれることから、住民生活のあらゆる場面での活用がより一層広がっていくこととなります。

そのため、本村においても、マイナンバーカードについてさらなる普及促進を図り、継続した取組を行っていく必要がありますので、効果的な周知、広報や、申請サポート及び出張申請受付、休日窓口の開設などにより、きめ細やかな対応に努めてまいります。

次に、3つ目の「活力ある村づくり」についてであります。

令和6年産米の生育状況につきましては、米の市況調査会社の米穀データバンクによりますと、現時点での作況指数は、全国で「平年並み」の101になるとの予測であります。令和5年産米の実績と同水準の評価となり、全国的におおむね天候に恵まれた一方で、一部地域の日照不足や東北地方の大雨などの影響が織り込まれての結果となっております。

しかしながら、足元では米の値上がりが続いており、今年産米においても今後の高温などにより障害などが発生すれば、等級への影響、さらには需給の逼迫などにより、価格に対し

て大きな影響が及ぶことから、引き続き関係機関との連絡を密にし、早め早めの状況把握に努めるとともに、農家の皆様に対しても情報を提供してまいりたいと考えております。

夏秋野菜につきましては、例年より生育が1週間から10日くらい早く、キュウリ、トマトについては、収量、単価ともに高い状態が続いておりましたが、カメムシをはじめとする害虫の発生も多く見られ、県須賀川農業普及所、村営農推進協議会等、関係機関の協力を得ながら、防除等の対応を行ってきたところであります。

次に、今年度中の策定を進めている農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画につきましては、現在、地区ごとの策定に向けた座談会を開催しており、地区の今後の農業の在り方、農地利用の進め方等について話し合いを行っております。

今後、10年後の将来を見据えた時に見えてくる地域農業の現状と課題を的確に捉え、地域での議論を深めながら未来の設計図として位置づけ、持続可能な地域農業を推進してまいります。

次に、商工業並びに観光の振興につきましては、玉川夏祭りについては、今年は当初、台風による影響も心配されましたが、幸いにも大きな影響もなく、商工会の皆さんを中心に、村内の各種団体のご協力をいただき、夏空の下、盛大に開催され、多彩なステージイベントや飲食ブース、そして花火大会などに、村内外からおおむね3,000人も多くの皆様においでいただき、夏のひとときの恒例イベントを楽しんでいただきました。

また、地域の方々と村内外の方々が交流する事業として、今年で3回目を迎えた森の駅 y o d g e の夏祭りが8月14日に開催されました。歴史ある四辻新田地区の盆踊りや地域の方の催しに加え、地域おこし協力隊や、y o d g e の事業運営に関わる民間事業者等との連携を図りながら、新たなイベントとして定着してきたことは、地域の誇りと愛着が強まり、さらに村内外からも多くの来場者が訪れることで、新たなにぎわい創出や交流が生まれ、経済の活性化や関係人口の拡大等、地域振興につながるものとして大いに期待をしております。

さらに、乙字ヶ滝公園を会場とした乙な市などのマルシェイベントを、村観光物産協会などが中心に開催しておりますが、年々開催ごとに認知度も上がり、毎回多くの皆様においでいただき、村を代表するイベントになりつつあります。

特に、夜の開催においては、数多くのランタンをともして行う幻想的な光の乙字ヶ滝イベントは、駐車場に入り切れない車が列をなすなど、毎回盛況なイベントとなっております。

9月28日には、乙な駅たまかわがオープンすることから、指定管理者と連携、協力しながら、公園と一体的なにぎわいづくりに努めてまいりたいと考えております。

次に、4つ目の「人を育む村づくり」についてであります。

村の人口増加を目指す取組は、あらゆる方面で積極的に進めておりますが、児童生徒数の減少は、避けられない現実の問題として対応していかなければなりません。

特に須釜小学校では、児童数の減少によって、令和11年度には2年生、3年生学年が複式学級となることを見込まれております。複式学級にも少人数なりのメリットはありますが、児童にとってよりよい学習環境や豊かな教育経験を提供するための在り方について、長期的な見通しに立って考えていく必要があります。

さらには、小学校と中学校の接続や、こども園との連携、公民館など社会教育との関わりなど、総合的、長期的な見方から、村として魅力ある教育環境を整備するという視点に立って学校の在り方を検討することが必要であると考えております。

これまで、庁内において学校の在り方検討会議を開催し、いろいろな具体策を検討してまいりました。さらに、今年度実施いたしました村民懇談会でいただいたご意見なども踏まえながら、村内の有識者や住民による、仮称ではございますが、学校の在り方検討委員会を立ち上げ、年度内には村としての方針を固めたいと考えております。

次に、中学2年生を対象とした中学生国内研修事業につきましては、去る7月24日から26日までの3日間の日程で、昨年度に引き続き沖縄県を訪問いたしました。

出発前から台風3号の影響により実施が危ぶまれましたが、私が団長となりまして、玉川中学校2学年の55名の生徒と引率教諭の6名など、総勢64名で訪問、実施してまいりました。

荒天の中、一部内容の変更はありましたが、沖縄の大自然と平和学習としての戦争体験講話などは、生徒たちの今後の人生で大きな経験となったと思われまます。

そして、今回の研修の一番の目的でもあります北中城村の中学生との交流においては、村長をはじめ、生徒や関係者など、多くの皆さんの熱烈な歓迎を受け、お互いの中学校の紹介やフリートークを行うことで、すばらしい関係を築くことができ、今後は個人的な交流へも発展するのではないかと感じたところであります。

本事業につきましては、明日を担う子供たちの人材育成に資するため、村の特色ある事業として、来年度以降も引き続き実施してまいりたいと考えております。

また、玉川学園との包括連携協定に基づき、今年度も小中学生を対象とした玉川大学の学生による学習支援、中学1年生を対象とした玉川大学訪問等を実施しております。

学習支援については、小中学生の学力向上を目的として、8月と2月に玉川大学の学生を本村に招き、算数・数学の復習を中心に伴走型の支援等を実施し、児童生徒の課題克服に一

定の成果が得られたものと考えております。

また、訪問事業については、大学の魅力や大学で学ぶ意義を感じ、幅広い視野と将来設計の一助となることを目的に実施してございまして、初めて体験するキャンパス見学、ものづくり体験、音楽堂での聴講など様々な体験を通じ見聞を深め、今後の進路など参考になる貴重な経験が得られたのではないかと考えております。

さらに、玉川大学との連携により、玉川村魅力発信事業として、玉川村魅力向上・発信チームを結成し、既存の交流・体験コンテンツを組み込んだ国内向けやインバウンド向けのモデルコースを作成し、県内外や国外に広く情報発信を行うこととしております。

次に、5つ目の「交流と協働の村づくり」についてであります。

村民懇談会につきましては、議員の皆様にもご出席をいただきながら、去る6月18日から7月18日までの日程で、村内11行政区で開催いたしました。

皆様方の思いや考え、ご要望やご意見を直接お聴きする機会であり、そして我々の考えを直接お伝えできる貴重な場でもあり、双方向性のやり取りができる、とても大切な機会であると位置づけております。

山積している課題を解決し、村民の皆さんが安全に安心して快適に暮らせる生活環境、質の高い行政サービスを提供し、玉川村に生まれてよかった、住んでよかった、選んでよかったとお一人お一人が実感でき、満足し、誇りの持てる、魅力ある、活力ある、元気で豊かな村づくりを進めていくためにも、村民の皆様のご意見、ご協力が不可欠であるため、私の村づくりに対する基本的な考え方や、第6次玉川村振興計画で実施を計画している施策と、令和6年度に実施する主な事業、第7次玉川村振興計画策定のスケジュール、部活動の地域移行、さらには村の人口の推移、財政状況等について説明を行い、村民の皆様のご意見やご要望をお聴きしながら意見交換をさせていただきました。

多くの村民の皆様のご貴重な声をお聴きできましたので、今後の行政運営、村づくり、地域づくりに生かすとともに、令和6年度中に対応可能な案件につきましては、今定例会に提案させていただくなど迅速に対応するとともに、次年度以降の施策へも反映させてまいりたいと考えております。

次に、情報発信力の強化につきましては、今年度より全職員を情報発信員に位置づけ、情報発信力を強化しながら各種施策に取り組んでおります。

現在、公式LINEやインスタグラム等のSNSを活用し、村の行政情報や暮らしの情報、村主催等のイベント情報及び観光情報、災害発生時の緊急で告知する必要がある情報などを

発信しております。

昨年5月に開設した公式LINEでは、村公式ホームページや広報たまかわなど関連サイトへのリンクを掲載しており、友達登録者数も昨日9月5日現在で447名を数えております。

また、インスタグラムにつきましては、本年4月に公式アカウントを開設し運用を開始いたしました。これまで各種イベントや暮らしに役立つ情報など、様々な情報を発信しているところであります。

さらに7月からは、村の魅力を様々な人の視点から幅広く発信、拡散していただき、SNS上での認知度向上を目指すため、ハッシュタグキャンペーンを開催しております。

本村の魅力や情報を、必要な時に素早く多くの方々に知っていただくため、様々な媒体で周知を実施し、より多くの村民の皆様にご活用いただけるよう努めてまいります。

また、「玉川村に行きたくなる、住みたくなるCM」をテーマに、村民の皆様と一緒に企画、制作を行い、第23回ふくしまふるさとCM大賞に応募いたしました。現在、一次審査が行われており、今後、9月下旬に審査会が開かれる予定となっております。

制作期間はおおむね1か月と短い期間ではありましたが、村内の高校生が作成した企画書を基に、応募のあった玉川中学校の中学生3名と、1名の村民の方とともに、様々なアイデアを出し合いながら撮影と編集に取り組み、玉川村オリジナルのCMを作り上げることができました。

村民の皆さんとの協働によるCM制作により、村政に対する興味を持っていただくとともに、村づくりへの意識の醸成ができたのではないかと考えております。

次に、大規模プロジェクトの進捗状況等について申し上げます。

まず、阿武隈川遊水地群整備計画への取組につきましては、現在、国では事業用地の取得に向け、土地の所有者等と協議を進めており、多くの対象者に早期に補償等について説明を行えるよう、今月下旬からは国から委託を受けた業者スタッフを加えるなど、体制を拡充させた上で戸別訪問を行うこととしております。

また、集団移転先となる代替地につきましては、家屋移転の代替地を竜崎字原作田地区及び小高字稲荷畷地区の2か所に整備することとしており、国は移転希望者に対する説明会や希望区画、面積等に係る最終意向確認を実施するなど、整備範囲や配置区画の確定に向けて、合わせて27戸の移転希望者と現在調整を進めております。

また、竜崎字四斗蒔地区と中字道上地区の2か所を候補地としている園芸施設移転に係る代替地については、移転先や利用形態など、整備のために必要となる移転希望者の意向を確

認しながら、詳細の調整を進めていくこととしております。

こうした遊水地の整備に向けた各種調整等については、移転を余儀なくされる住民や優良な農地を提供する農家など、地域の関係者の意向を酌んだ形で進められる必要があることから、去る7月30日、鏡石町長及び矢吹町長とともに福島河川国道事務所長に対し、十分な損失補償や地内利活用の推進、立地地域への負担に対する財政支援等を求める要望を行い、事業に伴う地域の課題解決に向け、国が責任を持って対応するよう要請をいたしました。

今後も、しっかりと国等と連携、調整を図るとともに、言うべきことは国に強く訴えてまいりたいと考えております。

令和元年東日本台風から5年を迎える今年、岩手県や秋田県、山形県など、東北地域においてもこれまでに経験したことのないような大雨による洪水被害が発生する中、遊水地の計画地には、今年度、下流域から県内5つの市町村議会等が視察に訪れまして、本村を含む立地3町村の協力に対し感謝の言葉をいただくなど、下流域の方々が流域治水、遊水地群整備に関心を持っていただけるようになったことについては評価をしたいと思います。

村といたしましては、引き続きこうした流域の自治体をはじめ、国や県、関係団体と連携し、遊水地の整備が地域の意向や要望等を踏まえた形で円滑に進んでいくよう取り組んでまいります。

次に、複合型水辺施設整備運営事業を中心としたかわまちづくり事業につきましては、乙字ヶ滝かわまちづくり計画において、観光交流の拠点と位置づけております複合型水辺施設乙な駅たまかわについては、既に施設整備が完了しており、9月28日のオープンに向けて準備が進められているほか、国による護岸整備工事が実施されているところでございます。

施設の概要といたしましては、1階がレストランとクラフトビール醸造所等になっており、駐車場に面した2階には観光案内所やお土産コーナー、軽食コーナーが入ります。施設のオープンにより、観光案内などの情報発信強化や、カヌーやサイクリングなどのアクティビティによる関係人口、交流人口の増加につながるものと、大いに期待をしております。

次に、旧須釜中学校校庭を活用した宅地造成事業につきましては、本年5月に入札を実施し、現在工事を進めているところであり、計画どおり今年度中に完了する予定となっております。

また、宅地造成後の土地の販売方法や活用方法等については、住宅事業者や他の自治体へのヒアリング調査等を実施し、現在、参考となる点や課題等について整理をしているところであり、今後、販売方法や効果的な情報の発信方法等について決定し、事業を推進してまい

りたいと考えております。

次に、泉郷駅前整備によるにぎわいづくりにつきましては、現在、村が取得した旧駒木根工業跡地を含む範囲及び泉郷駅前周辺において、まちなかにぎわいづくりを念頭に、村の玄関口である泉郷駅利用者の利便性の向上、工場跡地の有効活用、公共交通機関の在り方、高齢化社会における移動の方法等を、地域の皆様とともに協議、検討しながら、将来のまちづくりプランを含む工場跡地の活用へ向けた利活用構想の策定を進めております。

去る9月4日に第1回目のワークショップを開催したところであり、今年度中の構想策定に向けて、村内有識者を中心とした検討委員会を早急に組織し、村のにぎわいづくりや活性化、さらには村民の皆さんにとって望ましい活用方法など、地域住民と村が一体となって検討しながら構想を取りまとめてまいりたいと考えております。

次に、村道及び上下水道の整備についてであります。

まず、道路整備につきましては、社会資本整備総合交付金事業により整備している村道中-17号線について、9月に着工し、2月中の工事完了の予定で実施してまいります。令和3年度より着手している起点側からの継続工事を行い、令和7年度末の全線開通に向けて、しっかりと取り組んでまいります。

また、村道南-50号線につきましても、9月に着工し、2月中の完了を目途に工事を実施いたします。宅地造成工事の調整池からの排水箇所を中心に工事を行い、令和7年度末の全線開通に向けて取り組んでまいります。

次に、上水道につきましては、水道未普及地域の解消に向けた取組として、四辻新田水源や浄水場の整備工事を昨年度発注しており、今年の10月に工事を完了し、年内には一部区間について供用開始する予定としております。

また、今年度も、県道飯野三春石川線の管路布設工事を発注し、安全で安心した水の供給と給水区域の拡大や水道普及率の向上に取り組んでおります。

さらに、村の地域防災計画で指定する避難施設である重要給水施設への老朽配水管更新事業として、小高字丑久保地内の村道Ⅱ-6号線の配水管の布設替え工事を実施し、地震に強い耐震管への切替えを行い、安定した水道水の供給を継続してまいります。

次に、下水道につきましては、農業集落排水事業玉川地区の汚水処理施設を今月末に完成させ、区域内の一部地域について供用開始する予定としております。

昨年度から繰越工事として実施している管路布設工事や、今年度発注した管路布設工事につきましても、管路布設延長の進捗率を高めるなど事業推進を図りながら、処理区域内の管

路布設エリアを順次拡大させて行き、農業用排水の水質向上と、公共用水域の水質保全に取り組んでまいります。

次に、令和5年度の決算について申し上げます。

令和5年度の村財政運営につきましては、村民の皆様のご理解と議員各位のご協力により、第6次玉川村振興計画後期基本計画の下、村の将来像に掲げる「未来（あす）が輝く村づくり“元気な”たまかわ」の実現に向けて、「皆で支えあう福祉の村づくり」、「環境にやさしい安全・便利な村づくり」、「活力のある村づくり」、「人を育む村づくり」、「交流と協働の村づくり」の5つを基本目標に、各種事業を計画どおり推進することができました。

また、各特別会計においても予算内で事業が執行され、各会計とも黒字決算が実現できましたことに対し、議員各位に改めまして感謝を申し上げます。

一般会計歳入歳出決算の概要について申し上げます。

歳入については、各項目とも収入客体的確な把握により、適正な財源の確保に努めた結果、歳入合計は53億4,891万7,610円となりました。

歳出については、住民福祉の充実を目指すとともに経費の節減に努める一方、投資的事業の計画的な執行をはじめ、頻発、激甚化している自然災害に備えるための取組等を講じた結果、歳出合計は49億7,894万7,644円となりました。

以上の結果、歳入歳出差引額は3億6,996万9,966円となり、翌年度へ繰り越すべき財源3,583万9,000円を除いた実質収支は3億3,413万966円となったところであります。

それでは、提出議案についてご説明を申し上げます。

議案第55号 令和6年度玉川村一般会計補正予算（第2号）につきましては、令和5年度決算により繰越金が確定したことに伴う補正のほか、4月の人事異動に伴う給与等人件費について、所要額を計上いたしました。

また、65歳以上の高齢者に係る新型コロナワクチン定期接種費用を助成するため、国の新型コロナ定期接種ワクチン確保事業補助金を財源といたしまして、新たに予算計上をしたところでございます。

さらに、村民懇談会で要望のあった村道等の維持補修費やグレーチングの盗難防止対策等に係る費用について、それぞれ所要額を計上いたしました。

これによる一般会計補正予算額の総額は2億1,582万9,000円の増額となり、本年度予算の総額は50億4,085万4,000円となります。

また、特別会計等につきましては、玉川村介護保険特別会計、玉川村後期高齢者医療特別

会計、玉川村上水道事業会計及び玉川村農業集落排水事業会計について、所要の経費を計上いたしました。

その他の議案といたしましては、報告が健全化判断比率及び資金不足比率の報告についての1件、条例が玉川村複合型水辺施設の設置及び管理に関する条例の制定についてなど2件、決算の認定等が令和5年度玉川村一般会計歳入歳出決算の認定についてのほか、特別会計については令和5年度玉川村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定についてなど4件、企業会計については令和5年度玉川村上水道事業会計未処分利益剰余金の処分及び決算の認定についてなど2件、その他の議案が福島県後期高齢者医療広域連合規約の変更についてなど4件で、いずれも村政執行上重要な案件であります。

提案いたしました議案の詳細につきましては、担当課長より説明させますので、慎重にご審議の上、速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明とさせていただきます。

よろしく願いいたします。

○議長（小針竹千代君） 村長の提案理由は、ただいまの説明のとおりです。

◎請願の処理について（委員会付託）

○議長（小針竹千代君） 日程第4、請願の処理についてを議題とします。

8月9日までに受理した請願は、お手元にお配りしました請願文書表のとおりです。所管の常任委員会に付託いたしますので、委員長は会期中に審査を行い、その結果を最終日に報告されるようお願いいたします。

◎議長発議 玉川村議会決算審査特別委員会の設置について

○議長（小針竹千代君） 日程第5、玉川村議会決算審査特別委員会の設置についてを議題とします。

令和5年度玉川村各種会計決算の認定に当たり、予算や事業の執行状況について執行部から説明を受け、十分な審議を行うための新たな特別委員会として、決算審査特別委員会の設

置の必要があると認められます。

お諮りします。

上程された議案第48号及び第49号並びに認定第1号から第5号までの決算に関する7議案について、議長を除く11名の議員で構成する玉川村議会決算審査特別委員会を設置し、これに付託して審議することにしたいと思います。ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（小針竹千代君） ご異議なしと認めます。

したがって、上程された議案第48号及び第49号並びに認定第1号から第5号までの決算に関する7議案について、議長を除く11名の議員で構成する玉川村議会決算審査特別委員会を設置し、これに付託して審議することに決定しました。

ただいま特別委員会委員が決定いたしました。委員会条例第8条第2項の規定により、特別委員会において委員長及び副委員長1名を互選することになっております。

次の会議までに委員長及び副委員長の互選結果の報告を求めます。

◎休会の議決

○議長（小針竹千代君） 本定例会における休会についてお諮りいたします。

委員会審議のため、9月11日及び12日は休会としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○議長（小針竹千代君） 異議なしと認めます。

よって、9月11日及び12日は休会とすることに決定いたしました。

◎散会の宣告

○議長（小針竹千代君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これで散会いたします。

（午前10時44分）